

2021年 入試改革

コロナ禍での「入学者選抜実施要項」ついに公表！

休校対応で共通テストは1月中旬、末の2回実施！

旺文社 教育情報センター 2020年6月23日

文科省は6月19日、本年度行われる2021年入試について「入学者選抜実施要項(以下、選抜実施要項)」を公表した。注目は、新型コロナウイルスによる学校休業がほとんどの学校で3か月も続いたことに対し、大学入試をどのように実施するのか、という点だった。

選抜実施要項ではその対応策として、共通テストを2週間あけて2回行い、2回目の1月末は「学業の遅れ」を理由に選択できることなどを示した。ほかにも共テで地公、理を各2科目課す大学に1科目への負担減を求めるなど、入試科目・日程への影響は大きい。今後は各大学で当初予定からの変更が相次ぐとみられる。

●これまでの経緯

選抜実施要項は、その年度に行われる大学入試について、実施期間や選抜方法などの大枠のルールを示したもの。例年は6月初旬に大学等に通知される。今年は新入試初年度で、入試改革が二転三転した経緯もあり、もともと注目度は高かった。それにもかかわらず発表がここまで遅れたのは、新型コロナの対策が難航したためだ。一つはこれまでの学校休業への対応、もう一つは今後の入試本番期での対応だ。

特に学校休業(その他、各種資格試験や大会等の中止)に対して、これまで萩生田文科相は「日程延期」や「出題範囲の制限」などの可能性を示しており、文科省の結論が待たれていた。

総合型、学校推薦型選抜については、5月14日に文科省から大学に通知が出されたが、内容は選抜方法での配慮事項にとどまった。そして今回、日程や一般選抜について方針が示されたことになる。

本記事では選抜実施要項の中でも特に新型コロナ対応について見ていく。

ポイント① 共通テスト

※記事中、共テ「第1日程」「第2日程」の呼称は、萩生田文科相によるもの(6月19日会見より)。選抜実施要項では日程の呼称はない。

- ・日程は以下。従来の「本試 ⇒ 追試(1週間後)」ではなく、特例的に「第1日程 ⇒ 第2日程(2週間後) ⇒ 特例追試(2週間後)」の3段構えに。

【第 1 日程】 1 月 16 日、17 日

> 予定どおりの日程で実施。

【第 2 日程】 1 月 30 日、31 日

> 「学業の遅れ」を理由に選択可(例年、追試は病気、ケガなどの理由のみ)。

> 「第 1 日程」の追試としても実施。

> 全都道府県に試験会場を設置(例年、追試の会場は全国で 2 か所)。

> 実施日は「第 1 日程」の 2 週間後(例年、追試は 1 週間後)。

【特例追試験】 2 月 13 日、14 日

> 「第 2 日程」の追試として実施(特例として新規実施)。

- ・大学は地歴、公民、理科について(高 3 で履修が多い)、2 科目選択を 1 科目に減らす、指定科目以外への科目変更を認める、など配慮(「2 年前予告」の例外を認める)。
- ・大学は特例追試の受験者も、共テを利用する各入試に出願できるよう配慮。

ポイント② 各大学の個別入試

- ・日程は以下。総合型選抜の出願が 2 週間後ろ倒しに。

【一般選抜】

> 実施…2 月 1 日～3 月 25 日※(当初予定どおり)。

> 合格発表…3 月 31 日まで(当初予定どおり)

※学力検査の日程。学校推薦型、総合型で課す場合も同様。小論文、口頭試問、実技等はこれより前でも実施可。

【総合型選抜】

> 出願…9 月 15 日以降(当初予定は 9 月以降)。

> 合格発表…11 月 1 日以降(当初予定どおり)

【学校推薦型選抜】

> 出願…11 月 1 日以降(当初予定どおり)。

> 合格発表…12 月 1 日～一般選抜の試験日の 10 日前※(当初予定どおり)。

※学校推薦型で共テを課す場合は前日まで。共テの特例追試を活用する場合は、さらに遅くて可。

- ・新型コロナ等に罹患した受験生への措置として、大学は追試または振替を必ず実施。
- ・文科省は上記措置を同省 HP で公開。
- ・数学Ⅲ、物理、化学、生物、地学、世界史 B、日本史 B、地理 B、倫理、政経など(高 3 で履修が多い科目)、大学は問題を選択できるようにするなど配慮。
- ・大学は教科書の「発展的な学習内容」を出題しない、あるいは注釈をつけるなど工夫。

「発展的な学習内容」の扱いの配慮にとどまった。ただし共テでは、「地歴公、理の各 2 科目選択 ⇒ 1 科目に減」が求められており、国公立大は科目変更が相次ぐとみられる。

●現状の不明点

次項に示す「共テ第 2 日程での受験」を考えるには、選抜実施要項ではまだ不明点が多い。特に共テの成績提供は「第 2」と「特例追試」を入れ込むのか、いつになるのか。各大学の入試日程への影響も非常に大きい。

【入試全般の日程】		当初予定	⇒	今回の変更	【参考】昨年度まで
総合型	出願	9月以降	⇒	9月15日以降	8月以降
	合格発表	11月以降	⇒	ママ	期限ナシ
学校推薦型	出願	11月以降	⇒	ママ	同様
	合格発表	12月以降	⇒	ママ	期限ナシ
一般選抜	実施	2月1日～3月25日	⇒	ママ	2月1日～4月15日
	合格発表	3月31日まで	⇒	ママ	4月20日まで

【共通テストの日程】		当初予定	⇒	今回の変更	【参考】昨年度まで
共通テスト	第1日程 実施	1月16日、17日	⇒	ママ	同様
	第2日程 実施	例年追試は1週間後	⇒	1月30日、31日	本試験の1週間後
	特例追試験 実施	ナシ	⇒	2月13日、14日	実施ナシ
	大学への成績提供	私立大＝2月2日から 国公立大＝2月4日から (国公立大の共テ課す総合型、 推薦型は2月3日から)	⇒	？ 第2日程と特例追試が どう影響？	同様

「第2日程」「特例追試」⇒「成績提供の日程」の影響大。
私立大の共テ利用、国公立大の日程はどうなるか。



【国公立大の日程】		当初予定	⇒	今回の変更	【参考】昨年度まで	
一般選抜	出願	1月25日～2月3日	⇒	？ 第2日程と特例追試が どう影響？	同様	
総合型 学校推薦型	合格発表	2月10日まで	⇒		同様	
一般選抜	前期	第1段階選抜 実施	2月10日まで 2月25日から		⇒	同様
		合格発表	3月1日～3月10日(公) 3月6日～3月10日(国)		⇒	同様
		第1段階選抜 実施	2月20日まで 3月8日以降		⇒	同様
	後期	合格発表	3月20日～3月23日		⇒	同様
		第1段階選抜 実施	2月28日まで 3月12日以降		⇒	同様
		合格発表	3月20日～3月24日		⇒	同様

このほかにも、「第 2」の対象者はどうなるのか(既卒を含め、誰でも受けられるのか)、「第 1」「第 2」の選択を受験生はいつするのか、なども気になる。これらの不明点は今後、以下の流れで判明していくことになる。

- ⇒ 【文部科学省】 選抜実施要項 … 今回発表されたのがコレ
- ⇒ 【入試センター】 共テ実施要項 … 例年、選抜実施要項と同時期
- ⇒ 【国大協、公大協】 入試日程の見直し
- ⇒ 【各大学】 選抜要項、入試ガイド … 7 月末まで

●どのくらいの受験生が「第2」を選択するか

最大の注目点はここになる。ただし前述に加え、もう1点、大きな不明点がある。それは「予備校等は自己採点を実施するのか(第2や特例追試)」という点だ。ここがわからないうちは、受験生も「第1」「第2」の選択はできないだろう。

仮に第2まで自己採点を実施するとした場合、現段階で想定できる「第2」のメリット、デメリットは以下のものが挙げられる。

【「第2」のメリット】

- ・2週間の学習時間が得られる。
- ・初の共テ問題を見てから試験に臨むことができる。

【「第2」のデメリット】

- ・試験会場はどれだけ設置されるのか(「全都道府県」とはいうけれど…)。
- ・以降の入試日程が非常にきつい(翌日から私立大入試はスタート、国公立大の出願はいつ? 2次対策の期間も短い)。
- ・「第2」で万が一、コロナやインフルに罹患したらどうなる?(特例追試は国公立大をはじめとした各大学の出願に間に合うのか?)

特に最後の点、「第2」が受けられず、特例追試になった場合は要注意だ。選抜実施要項では、各大学は特例追試でも出願できるように「配慮する」、総合型選抜で特例追試の成績を「活用する場合」といった記述がみられる。入試によっては特例追試では間に合わない可能性が伺える。

新型コロナの今後の状況がまったく見えない中で、このリスクは非常に大きい。やはり大半の受験生は「第1」で受験してくるのではなかろうか。



現状では不明点も多いし、今後、いろいろな受けづらさも出てこよう。共テも3段構えになり、合否判定がどのように行われるのかわからない。不平を言おうと思えばいくらでも出てくる。

ただし本年度は新型コロナ禍での大学入試という、極めて異例の年だ。文科省は長期にわたる学校休業で、受験生が不利益を被らないことを最優先してきた。すなわち学習時間と受験機会の確保だ。今回の選抜実施要項は、可能な限りこれらの担保がなされているといえる。

今後、新型コロナが大きく拡大しない限り、本年度の大学入試はこれで行われる。受験生には勉強に集中し、大学入試に臨んでもらいたい。

(2020.06 石井)